

令和4年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

《 開催ブロック代表挨拶 》



■ 稚内市長 工藤 広

皆さんこんにちは。今ご紹介いただきました地元、稚内市長の工藤と申します。

今日は「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の総会にご出席いただくために全国各地からこのようにみなさんにお越しをいただいたこと、誠に心から感謝を申し上げますとともに、事務局から北陸地方整備局 杉野次長さんをはじめ皆さんもおいでをいただいて、本当に有り難うございます。地元を代表して心から皆さんをご歓迎申し上げます。

日本の北の国境を近接するこの地域であります。宗谷海峡を挟んでわずか43km北へ、ロシア、サハリン州の島影を望むことができるそんな街として、これまでのサハリンプロジェクト、大型クルーズ船の寄港などさまざまな期待を背に国から港湾整備に力を注いでいただけてきたところではありますが、残念ながら新型コロナウイルス、更にはロシアのウクライナ侵攻、我々のまったく想像の出来ない出来事が起こり、港湾の活性化にも大きな打撃を受けているところであります。

一方ではご承知かもしれませんが、国内でも有数の風の街ということで、特に陸上の大型風車の建設が進んでおりまして、現在市内にはすでに83基、100メガを超える規模の風車が建設されておりますが、ここまで国が中心となって整備が進められてまいりました送電の整備事業、実は今年度で完成いたしました。それに伴って更に4メガ級の風車が150基、600メガの風車建設が今この地域で進められておりまして、稚内といえば現在その資材が大量に運び込まれているというのがこの町の現状でもあります。勿論、港湾をめぐる

これらの動き、国のカーボンニュートラル2050に貢献するために大変重要なことなのは勿論であります。一方では大型クルーズ船、先程お話ししましたがそれも十分大事なことだと、申し上げるまでのことではございません。

先ほどお話しした通り、さまざまな影響で今年度は残念ながら1隻の寄港にとどまっていますが、このネットワーク会員の皆さんとも連携しながら、今後も一層誘致に努めていきたいと考えているところでございます。

改めてお越しいただいた皆さんに心から感謝を申し上げますとともに、それぞれの港湾の一層のご発展、そして今日こうしてご出席いただいている皆さんのこれからのご活躍を心からご祈念を申し上げさせていただきます。粗辞ではありますが本総会の開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願い致します。